

今号の主な記事

2面～5面 認知症特集—あなたが私を忘れても。 6面 令和元年度上半期財政公表 8面 福生市職員等の給与状況  
9面 人事行政の運営等の状況 10面 すみれ保育園で年末保育を実施 11面 郷土資料室企画展示「正月の飾り物」 12面 保健ガイド

—認知症特集—

## あなたが私を忘れても。

市内在住の田中梅夫<sup>たなかうめお</sup>さんは、妻・節子<sup>せつこ</sup>さんの認知症介護を長年続けられてきました。大切な人のための介護生活。そこには当事者にしか分からない苦悩がありました。

今号の広報ふっさは「認知症特集」。認知症介護者が抱く思いとその家族に寄り添う地域の取り組みに迫ります。

【企画・発行】秘書広報課広報広聴係 ☎ 551・1529



田中梅夫さんと、認知症発症時の妻・節子さん  
(診察帰りに立ち寄った羊山公園・芝桜の丘にて)

### 「まさか妻が…」最愛の人を襲った認知症

#### 妻

は昔から、よさこい踊りな活発的な性格でした。普段から細かいことを考えるのは少し苦手です。旅先では、友達が驚くほどお土産を多めに買うことも…。そんなところも魅力的に思える女性でした。

そんな妻の行動に違和感を覚えたのは、平成25年の冬。地域活動仲間からの知らせでした。どうやら自分で物事の整理がつかなくなると目に留まったのは「マネ板」や「センメン」と書かれた台ふきん。毎日料理を作ってくれた妻にとって、身近な台所用品のはずが、時折、使用用途が分からなくなっていたのです。

ある日、妻が倒れたと連絡を受け、急いで救命救急センターに駆けつけるも、外見は至って普通でした。しかし退院後、妻の行動の違和感は日に日に大きくなっていき、介護福祉士の紹介もあり、専門医に見てもらうことに。下さされた診断結果は「レビー小体病」。認知症でした。



田中梅夫さん (83歳)  
平成25年に妻・節子さんの認知症が発覚し、在宅介護を経験。

#### 毎日が壮絶だった介護の日々

認知症介護が始まってからは、毎日が壮絶でした。デイサービスも利用しましたが、面倒を見てもらえるのは午後3時まで、帰宅してから妻が寝るまでの間は私が介護します。

妻が自宅にいる時間は文字通り、目が離せません。何をするか分からないのです。ある晩、妻の寝室から「ガラガラ」という大きな音が聞こえたので行ってみると、雨戸を急いで開けている妻の姿がありました。何をしているのか尋ねると、「もう朝だから雨戸を開けなくちゃ」と答える妻。時計に目をやると時間は深夜1時。1秒ごとに動く秒針を見て、妻は時間を判断していたのです。



←山登りが好きだった節子さん。認知症を発症する前は、プールや絵画などさまざまな活動を嗜まれていました。



→台ふきんには、使用用途を思い出すために、節子さんが書いた「センメン」「マネ板」の文字も。



←部屋の時計には、節子さんが時間を読み間違えないようにと、秒針が白く塗られています。